

## 審査結果の要旨

報告番号	乙 第 2923 号	氏名	藤 野 真 也
審査担当者	主 査	矢野 博之	(印)
	副主査	緒 永 裕	緒 (印)
	副主査	杉田 保子	(印)
主論文題目： Mina53 nuclear localization is an important indicator of prognosis in patients with colorectal cancer after adjuvant chemotherapy (Mina53 の核局在は大腸癌術後補助療法後患者にとって重要な予後因子である)			

### 審査結果の要旨 (意見)

Mina53 は常岡らにより発見された c-Myc 遺伝子の標的分子であり、種々の癌細胞の増殖に関与していることが報告されている。今回、大腸・直腸癌における Mina53 の発現の意義について 250 症例を用いて検討した結果、Mina53 陽性の stage II/III の大腸・直腸癌では再発が多く、無再発生存期間が有意に不良である事が判明した。更に、層別解析では、stage III の症例で補助化学療法を受けた人で腫瘍の Mina53 が陽性の場合には陰性の人に比べ有意に無再発生存期間が不良であり、多変量解析でも無再発生存期間を規定する独立した予後因子である事が判明した。本研究は、Mina53 発現の大腸・直腸癌における意義を初めて明らかにしたもので、その意義は大きい。特に、Mina53g が化学療法抵抗性の予後不良群同定のバイオマーカーとなり、更に、今後、治療標的分子としての意義も示唆され、学位論文として極めて価値の高いものであると判断する。

### 論文要旨

この研究の目的は、ステージ II 及び III 大腸癌患者において c-Myc 関連分子である Mina53 のステータスと Mina53 の核局在が臨床に及ぼす影響を明らかにすることである。  
対象は根治切除術を施行された大腸癌患者 250 例を対象とした。  
組織マイクロアレイ法を用いて組織標本作製。腫瘍細胞における Mina53 の発現は、免疫組織化学染色を用いて評価した。Mina53 が腫瘍細胞の核に染色されている群 (陽性群) とされていない群 (陰性群) にグループ分けし、臨床病理学的項目を検討した。  
再発は Mina53 陽性群が多かった。無再発生存期間 (RFS) では、Mina53 陽性群は、陰性群より有意に予後が悪かった。単変量解析では、組織型、補助化学療法の有無、CEA と Mina53 の有無が予後因子であった。サブグループ解析では、ステージ III において術後補助化学療法を受けた症例では RFS において Mina53 陽性群は、陰性群より予後不良であった。  
単変量及び多変量解析では組織型と Mina53 の有無が有意に関係していた。  
Mina53 はステージ III 大腸癌術後補助化学療法症例においての予後予測の重要な指標であることが示された。